

オリガミアンだより

2021年5月8日発行

第45号

折り紙を見ながら素敵なストーリーを考案してみよう

第44号で小学校へのプレゼントも結局は自分のため、また自分なりのストーリーを考えると、より面白い作品群になるのではないかと私見を披露させていただきました。10人いたら10通りのショート・ストーリーが出来るわけですから楽しみです。

今回、ストーリーを考える時、これまで教室で習った作品を軸にして自由に考えると発想が広がっていくと思います。面白いお話が出来たら関連の写真をつけて熊谷の方まで送ってください。皆さんの参考に「オリガミアンだより」でご紹介することもあります。

せっかくの長い「ステイ・ホーム」です。前向きに有意義に考えて教室再開時にお持ち寄りください。以下は「私ならこうする」熊谷版です。



パンダ一家。お父さん、お母さん、弟とともに



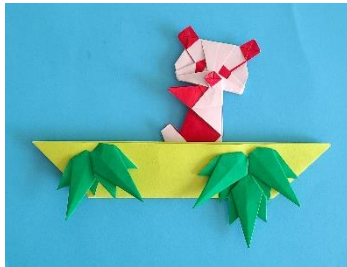
近くには鬼も住んでいましたが、ランランとは仲良し。金色の孔雀や五色の鶴、また美しく大きな薔薇の花も咲き誇り桃源郷のような環境でした。



鬼が連絡用にくれたハート型ボタン

ランランが娘盛りになった時、ふと「あの高い山の向こうの世界に行きたい」と思いました。それから、この思いが日ごとに膨らんでいきました。心配した家族は懸命に引き止めましたが、ランランの決意は変わりません。魔法の力を持つと言われる鬼に相談すると「それなら3つだけ希望を聞いてやろう。俺へ連絡したい時はこのハートのボタンを握り、右に2回ぐるぐると回せばよい」と教えてくれました。

ランランが冒険に旅立つ日がやってきました。反対していた家族もランランの決意を知り、今は応援してくれるようになりました。さっそくハートのボタンを2回まわすと鬼さんと連絡がとれました。「私をあの険しい山の向こうへ運んで行って欲しい」と頼むと鬼さんはある大鹿に「この娘を背中に乗せて山の外まで運んでやって欲しい」と頼んでくれました。後世、日本でも大きな白鹿が奈良・春日大社の主神を背中に乗せ、遠く鹿島神宮からお連れしたとの言い伝えがありますが、ランランも同じ方法で外の世界へ飛び立とうとしているわけですね。



ランランは大鹿さんのおかげで無事、山の外の世界に降り立ちました。平地ではキツネやタヌキ、ウサギたちが楽しそうに遊んでいました。近くにはきれいな小川が流れています。ランランはこの岸辺にしゃがみ、ぼおおとしながら笹舟を作ってみました。「この笹舟で海岸まで行けないかしら。そうだ、鬼さんに頼んでみよう」と思い立ち、ハートのボタンを右へ二回まわしてみました。「二つ目の願いはなんじゃ」と鬼さんが現れたのでランランが自分の願いを伝えると笹舟はたちまち川舟に変化。ランランがやっと乗れるほどの大きさでしたが頑丈にできていました。



ランランが舟で海岸までたどり着くたくさんのカニが美しい貝殻を集めて一生懸命磨いていました。奥山育ちでこんな貝殻を見たことのないランランはうっとり。中には巻貝もあり、思わず「私も欲しい」と口走るとカニたちは「自分で海岸を歩かなければ美しい貝は拾えないよ」。

海岸でいろいろ社会勉強をした後、ランランはふと思い立ちました。ハート型ボタンを回し「鬼さん、最後のお願い。私を 2000 年後の日本に連れて行って」。鬼さんもさすがに驚き「そりゃあ大分遠いけど決心は変わらないか」と聞いてきました。「ええ、せっかく冒険に出たんだから、ぜひお願い」。

ランランがやってきたのは 1972 年（昭和 47 年）の日本。パンダを知る人は誰もいませんでしたが大歓迎され、落ち着いた先の上野動物園では毎日、観客が押し寄せ大人気に。ランランをモデルにした折り紙まで考案されました。そう言えば、昭和 30 年代、小学校への巡回映画「白蛇伝」に見たことのないタヌキのような格好をした動物も出ていたけど、あれがパンダだったんですね。



ここでランランの独り言。「思い切って未来の日本にやってきたけど日本の人は本当に私を好きみたい。後輩たちがあちこちの動物園やアドベンチャーワールドで人気者になっているけど、たまには息抜きしたいわ。こっそり抜け出して宅配便の従業員をやったり、本屋でアルバイトもしているの。内緒だけど三宮センター街のジュンク堂書店にいらっしやい。お客さんに聞かれた本探しをする私に会えるかも」。

いかがでしょうか。あなた自身のストーリーは何か浮かんできましたか？